

令和3年度事業報告

1. 令和3年度、理事会及び評議員会の開催状況について

(1) 第102回理事会

- ・ 日 時 令和3年6月1日（火）10時20分～11時23分
 - ・ 会 場 ワイム貸会議室四谷三丁目
 - ・ 議 案
 - 第1号議案 令和2年度事業報告（案）
 - 第2号議案 令和2年度決算（案）
 - 第3号議案 定款の変更について
 - 第4号議案 人事案件について
 - 第5号議案 定時評議員会の招集について
 - ・ 報告事項
 - クラウドファンディングの実施結果について
 - その他
- 上記、5議案が審議され、承認されました。

(2) 第83回評議員会

- ・ 日 時 令和3年6月17日（木）14時57分～16時13分
 - ・ 会 場 ワイム貸会議室四谷三丁目
 - ・ 議 案
 - 第1号議案 令和2年度事業報告（案）
 - 第2号議案 令和2年度決算（案）
 - 第3号議案 定款の変更について
 - 第4号議案 役員人事について
 - ・ 報告事項
 - こどもの国のコロナ禍における運営状況について
 - こどもの国平成記念館の改修工事について
 - クラウドファンディングの実施結果について
 - 令和3年度予算の概要について
 - その他
- 上記、4議案が審議され、承認されました。

(3) 第103回理事会

- ・ 日 時 令和3年6月17日(木) 16時15分～16時33分
 - ・ 会 場 ワイム貸会議室四谷三丁目
 - ・ 議 案
 - 第1号議案 理事長の選定について
 - 第2号議案 業務執行理事の選定について
- 上記、2議案が審議され、承認されました。

(4) 第104回理事会

- ・ 日 時 令和3年11月19日(金) 10時28分～11時27分
 - ・ 会 場 こどもの国会議室
 - ・ 報告事項
 - 令和3年度上半期事業報告について
 - 令和3年度上半期収支状況等について
 - 令和3年度施設整備工事概要について
 - 令和4年度施設整備予算要求の概要について
 - その他
- 審議議案は無く、報告のみ行われました。

(5) 第105回理事会

- ・ 日 時 令和4年3月29日(火) 10時30分～11時52分
 - ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水
 - ・ 議 案
 - 第1号議案 令和4年度事業計画(案)
 - 第2号議案 令和4年度予算(案)
 - 第3号議案 経理規程の改正(案)
 - ・ 報告事項
 - 令和4年度施設整備予算(案)の概要について
 - 令和3年度施設整備について
 - 園内の遊具による事故の発生と訴状への対応状況について
 - こども家庭庁の設置について(情報)
 - その他
- 上記、3議案が審議され、承認されました。

2. 入園者の動向

令和3年度の入園者数（有料） ⇒ 764,361人

(1) 近年の入園者数実績

| | |
|-------------|----------|
| 平成30年度 | 873,740人 |
| 平成31(令和元)年度 | 854,739人 |
| 令和2年度 | 541,370人 |

(2) 半期ごとの状況

<上半期>

上半期の入園者数は約353千人で、コロナ禍で運営した前年度比では、約191千人の増となったが、コロナ禍前の直近3カ年平均比では約128千人の減となっている。

コロナ禍による影響として、5月のゴールデンウィーク明けの学校の遠足シーズンに多くの予約をいただいていたが、緊急事態宣言の発令などと重なり、5月中だけでも約70団体(2万人強)がキャンセルとなった。また、7月、8月に入ると感染者数が連日、過去最多を更新する事態となり、外出を控える傾向が見られ、週末は晴天にもかかわらず5千人を超える日が無かった。9月中旬以降は感染者数が減少傾向となり、シルバーウィークの9月19日、20日は5月4日以降やっと1日の入園者数が1万人を超えることとなった。

天候による影響では、例年1日1万人以上の入園者数があるゴールデンウィークの4月29日、5月5日(雨にならなかったが一日雨予報)、お盆の8月13日～16日がいずれも雨となり、例年を大きく下回る結果となった。

<下半期>

下半期の入園者数は約412千人と前年度比約32千人の増となり、過去5カ年との比較でも最も多くの入園者数を記録した。

全般的に天候に恵まれ、前述のシルバーウィーク以降、個人の入園者数が増加し、10月から1月まで前年度を上回る状況が続き、特に11月は30年ぶりに10万人を超えることとなった。

2月は、近年、温暖化による暖冬が続いていたが、数年ぶりに白鳥湖が凍結するなど厳しい冷え込みが続いたことに加え、コロナ禍の影響でマラソン大会がほぼ全て中止(約15千人のキャンセル)になるなど、前年度比約15千人減の約57千人となった。

3月は好天に恵まれ、前年度比約14千人増の約82千人となった。

(3) コロナ禍における特徴

緊急事態宣言等の期間が長期にわたって発令され、前年度に引き続き、学校等の団体の予約自体が大幅に減少し、また、せっかく予約が入っても再度の宣言等により、予約がキャンセルとなってしまう状況が続いた（団体キャンセル：2年度約56千人、3年度約71千人）。

こうした結果、元年度以前は、入園者数の個人と団体の割合が8：2だったものが、2年度以降は9：1となっている。

3. 主な事業

「こどもの国協会の解散及び事業の承継に関する法律」（昭和55年法律第19号）第1条第3項に掲げる、児童の健全育成のための事業として、既存施設・設備を引き続き運営するほか、次の事業を行った。

なお、各種事業の実施を含めた園の運営に当たっては、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、政府方針等に沿った基本的な感染防止策を入園者、職員等に周知するとともに、密閉・密集・密接となる可能性の高い事業の開催の中止、または規模を縮小するとともに屋内施設等では利用制限などを行った。

(1) 自然との関わりを主とした来園促進のための各種イベント

毎年、恒例となっている自然体験イベントとして、「ほだ木にシイタケ菌の駒打ち」、「ジャガイモ掘り」、「枝豆収穫」、「サツマイモ掘り」の自然体験イベントを実施した。イベントに合わせ、畑で育てたタマネギを収穫し販売を行った。

自然と生き物の生態を感じてもらおう四季折々のイベントとして、「ザリガニ釣り大会」、「虫とりをしよう」、「夏休み昆虫教室」、「セミの羽化観察」、「セミ取り」、「セミのぬけがら調査」、「バッタ観察会」、「木の実観察会」、「冬の虫の観察会」、「冬の野鳥観察会」などを開催した。

これらのイベントは、外部講師やアルバイトへの依頼を最小限にし、職員中心で行ったため、例年より規模を縮小したものもあったが、多くの親子に参加いただいた。

このほか、

- ① 子どもたちの挑戦欲求を満たす遊びとして定着している「フィールドゲーム」と「ビンゴゲーム」

- ② 平日の集客増とシニア層を中心とした自然愛好家の利用を促すため、月1回ペースで実施している「ノルディックウォーキング」
- ③ 冬季の日曜日を中心に中央広場で実施した、焼き芋が人気の「たき火広場」

などを、ほぼ例年どおり開催。

また、昨年度、コロナ禍で中止した恒例イベントで再開したものとして、

- ① 「春まつり」(ゴールデンウィーク)、「秋まつり」(シルバーウィーク)は、企業からの助成の廃止やコロナ禍により規模は縮小したものの大道芸のパフォーマンスショーや体験などを内容として開催。
- ② 屋内実施となる「各種工作・陶芸」は、徐々に再開し、月1回程度で開催

するなど、来園促進に向けた様々なイベントを開催した。

一方、密集・密接になる可能性の高い「ゆめゆめシティ」やマスクを外す頻度が多くなる「七夕そうめん流し」、「バウムクーヘンづくり」などの食に関わるイベントはコロナウイルス感染予防の観点から昨年に続き、中止した。

(2) プール、スケート、野外炊事、スポーツ施設等

① プール

コロナ禍により、マスクを外してのプール利用は、感染拡大防止の観点から実施が難しいことから中止とし、代替事業として、昨年度に続き、中央広場に外部業者に依頼し、水遊びの場を提供した。

② スケート

期間は、12月18日から2月27日の62日間とし、感染拡大防止の観点から、今年度は1日の入場者数の上限を1,500人に設定するとともに、土日祝日はローソンチケットによる前売券を導入し、2年ぶりに営業を再開した。前売り券の販売は、10時、11時、12時の1時間毎の販売数を500枚にすることにより、入場時の混雑緩和に努めた。

有料入場者数は34,844人。開場当初は、前売券の認知が低かったことと、販売終了時間を当日朝8時にしていたことから、1千人に満たない状況だったが、1月から販売時間を12時までに延長したことにより、日曜祝日は完売する日が多くなった。入場者数は前々年度比8,673人の減となっている。

なお、スケート事業においては、早朝スケート教室、学校団体スケート

教室は中止した。

- ③ 野外炊事場は感染拡大防止のため、客数に上限を設け運営。一定数の新規利用者を得ることが出来た。
- ④ サッカー場、テニスコートは、コロナ禍にありながらも、例年同様に予約の完売状況が続いた。
- ⑤ 夏季を中心とした研修センター、キャンプ場は、感染防止対策の一環として、昨年度に引き続き営業を中止した。

(3) 雪印こどもの国牧場との連携

例年、「雪印こどもの国牧場」と連携し実施している、5月の「牛乳まつり」、11月の「牧場まつり」をコロナ禍により規模を縮小して開催。

また、3月には昨年度、コロナ禍により中止した「桜と羊のフェスティバル」を開催するなど、牧場ならではの内容で来園者に好評を得た。

(4) 企業の助成や協賛、教育関係団体等の協力による事業の実施

① 青空コンサート

10月に開催予定だった中学校を主な対象とした「吹奏楽コンテスト」と「秋の青空コンサート」は、緊急事態宣言の9月末までの延長による部活動の制限などから、昨年度に続き中止となったが、例年、中央広場で行っている「春の青空コンサート」は、プール大屋根下で5月に開催。近隣の中学校の吹奏楽部員たちが日頃の成果を披露した。演奏する機会が少ない中、参加した生徒たちの満足げな表情が印象的だった。

② 冬のコンサート (Winter Brass Festival)

平成記念館(旧皇太子記念館)の利用促進の一環として、12月に「冬のコンサート」として、近隣の高等学校4校の参加で演奏会を開催した。近隣の中学生など約千人が観覧に訪れ、コロナ禍により音楽に触れる機会が減少していることもあってか、盛況となった。今後、中学校の参加も含め、定期的に行うことができるよう工夫したいと考えている。

③ こどもの国サッカー大会・朝日新聞サッカースクール

11月に近隣のサッカー協会などの協力による第40回のサッカー大会を、また、朝日新聞社販売局の協力によるサッカースクールを開催し、多くのサッカー少年少女に楽しんでいただいた。

④ フォトコンテスト

雪印メグミルク、資生堂、横浜エフエム放送、朝日新聞社、朝日新聞出版、東急電鉄、横浜高速鉄道、ベルマーク財団の後援と賞品の提供を得て、3月から4月にかけて「園内の自然と家族」をテーマに作品を募

集し、昨年度の310点を上回る418点の応募があった。

⑤ ジャンボカルタとり大会・どんど焼き

テレビ朝日福祉文化事業団の助成を得て、正月行事として「ジャンボカルタとり大会」と「どんど焼き」を例年どおり実施した。どんど焼き終了後の恒例イベントとして、昨年度は中止した焼き芋を子どもら300人に振る舞った。

⑥ サンマを炭火で食べる会

感染防止対策をしっかりと行いながら、開催すべく準備を進めたが、前年同様にサンマの不漁に見舞われ、開催に必要な量を確保できないことから、昨年度に続き中止となった。

⑦ 神奈川県児童福祉施設駅伝大会、卒業生送別マラソン大会

例年、資生堂社会福祉事業財団の助成を得て行われる、11月の神奈川県内施設の子どもたちが参加する「児童福祉施設駅伝大会」、「児童福祉施設女子駅伝大会」、また、年明け1月の「児童養護施設卒業生送別マラソン大会」については、感染防止対策の観点から主催者側の判断により、昨年度に続き、今年度も中止となった。

4. 地域との連携強化

(1) 例年、近隣地域との交流を推進するため、夏休み及び冬休みにおける地元自治会主催の「親子の集い」行事の実施にあたり、プール及びスケート場を無料開放していたが、プールは昨年に続き休業したため中止。スケートは営業に伴い12月18日に無料開放し、551人に2年ぶりのスケートを楽しんでいただいた。

(2) 横浜市青葉区の広報紙「AOBA」に、こどもの国の告知枠をいただいております。その枠を有効に活用し、イベント情報に加え「今月の見どころ」も毎月紹介していただいた。

なお、例年、青葉区役所で開催されている「区民まつり」は、今年度も中止になり、園内で収穫した銀杏の販売は出来なかった。

(3) 東急バス青葉台営業所と青葉警察署がコラボした交通安全教室や、町田警察署による交通安全PRイベントを開催し、バスの死角体験や自転車シミュレーター体験、白バイ隊によるデモ走行などを行った。

(4) 地元小学校の生活活動の一環として、竹林整備や中央広場花壇へのチューリップの植栽など体験活動の場としての受け入れを行った。

なお、総合的学習・進路学習に寄与するため、例年、地元の中学・高校が実施する職場体験学習のための生徒の受け入れを行っていたが、コロナ禍により、昨年度に続き、学校側からの要請がなかった。

(5) 令和元年度から地域共生社会の推進の観点から、地域の若年認知症及び障害者団体の就労支援事業と協働し、園内のベンチ清掃を毎週1回、委託実施しており、今年度も実施した。

5. 自然環境及び施設の整備

豊かな自然を維持するため、樹木の剪定、伐採等を計画的に進めているが、昨年度に続き、特にナラ枯れの被害が激しく、園内における倒木等による来園者への被害を防止するため、例年に比べ数多くの危険木を伐採、焼却処分した。しかしながら、ナラ枯れへの対応はまだ不十分であり、引き続き対応が必要となっている。

施設の整備では、国費の補助により、老朽化が進んだ「プール・スケート場」冷却装置の更新等の改修工事を実施した。また、日本宝くじ協会の助成により、子どもからお年寄りまで安全で気軽に健康づくりに役立てるための様々な健康器具を設置した「すこやか広場」を整備した。

6. 広報・PR活動

(1) 「出前こどもの国」による広報・PR活動

東急や小田急などの企業と連携する「出前こどもの国」は、例年、駅前や商業施設に出店し、訪れた親子連れ等にかざぐるまの工作や缶バッジ作りを楽しんでもらうとともに、PRパンフレットとこども無料招待券をプレゼントするという園外広報活動である。昨年度から、コロナ禍で全く開催できない状況が続いていたが、8月に「ららぽーと横浜」で、11月に新百合ヶ丘の「エルミロード」でと、2度だけではあるが開催することができた。対面での活動であるため、コロナ禍により今後も商業施設等の態勢が正常化するまでは、本格的な再開は難しい状況にある。

(2) デジタルツールの強化

ホームページやツイッターの更新頻度を高めることでのタイムリーな情報発信や内容の充実に努めている。スマートフォンでの閲覧が多いことから、イベントカレンダーを始め、諸々のコンテンツを見やすく使いやすいように改良も行った。

また、イベントのネット予約システムが本格稼働したことで、利用者の利便性向上、電話回線の専有回避、キャンセル待ちの導入に寄与している。

7. クラウドファンディングの活用状況について

令和3年1月15日から同年5月14日までの4か月間、「こどもの国の貴重な緑を守り、未来へつなげる」ことを目的に、目標額1千万円として「クラウドファンディング」を実施した。

その結果、

| | |
|------------|-----------------------|
| 1,769人(団体) | 15,016,800円(支援金総額) |
| | 12,539,028円(経費差引後収入額) |

のご支援をいただくことができた。

いただいた支援金については、クラウドファンディングサイト運営会社への必要経費分を差し引いた総額を、令和3年度において、こどもの国の自然や景観の維持のための、以下の経費に活用させていただいた。

(活用した経費内容)

- ナラ枯れ樹木の伐採費用
- 園内駐車場等の除草費用
- 中央広場花壇等の花苗等購入費用
- 竹林維持管理整備のための費用

以上